



ロータリーの  
マジック

2024~2025年度  
国際ロータリーテーマ

# UEDA EAST

## 上田東ロータリークラブ

第2600地区 東信第2グループ 創立1978.6.14

会長 / 渡辺敏成 幹事 / 工藤 恒 会報委員長 / 飯島洋一

例会 : 毎週水曜日 午後12:30 ~ 1:30

会場 : 上田東急REIホテル

事務局 : 上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル 3F

TEL 0268-21-3500 FAX 0268-21-3501

URL : <http://www6.ueda.ne.jp/~uedaeast/rc/>

E-mail : [uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp](mailto:uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp)

### WEEKLY REPORT

JULY.31.2024 第2112回

## イニシエーションスピーチ



村上 泰君(信州大学繊維学部 学部長)

アメリカで生まれ、10ヶ月で日本へ。名古屋で管理教育とは無縁で育ちました。小学校のとき、化学実験に惹かれて化学にはまりました。中学校でディスカッション授業を受け、社会科に目覚めました。高校で化学者である父親と同じ道を進もうと決意して、東工大へ。3年生までは、理系の大学生の国際インターンシップを担う組織、IAESTE（日本国際学生技術研修協会）を学生が運営する活動に熱中しました。企業へ賛助や外国人学生の引き受けのお願いに行ったり、来日外国人学生と交流プログラムを企画したりしました。4年生で研究室に所属し、触媒の研究に6年間、励みました。東工大で4年間助手を勤め、研究分野をセラミックス分野に広げました。

1993年4月に信州大学繊維学部講師として着任しました。1997年、新幹線が開通して、上田は東京に近くなり、1998年、長野オリンピックが開催された年に、繊維学部がCOE（中核研究拠点）として認められ、急速な発展を遂げました。2002年に知的クラスター創成事業第I期がスタートし、メンバーに加えてもらい、産学連携を学び始めました。自学科でJABEEプログラムの審査を受け、審査の後に右足を骨折しましたが、無事認定されたり、2006年に繊維学部がISO14001認証取得したり、こうしたマネジメントシステムの立ち上げと審査対応の中心になっていました。

2007年に信州大学繊維学部教授に昇進。知的クラスター創成事業第II期がスタートし、研究リーダーに任命され、2013年に京都スーパークラスター長野サテライトがスタートし、研究統括に任命されました。産学連携マネジメントを10年も続けて、鍛えられました。

2014年から材料化学工学課程長、ファイバー材料工学コース長になり、2017年には繊維学部の副学部長になって学部執行部に。2021年に信州大学評議員に選ばれ、2024年4月から信州大学繊維学部長に就任しています。

日本で唯一の繊維学部として、繊維の伝統を維持するだけでは成り立たないので、繊維分野を課題解決先進分

野にする必要があります。繊維産業は、大量生産・大量消費・大量廃棄が課題であり、サーキュラーエコノミーの実現、マイクロプラスチック問題の解決などで、他分野のモデルになるようにしていきます。

信州大学繊維学部の産学連携は、ファイバーイノベーション・インキュベーター(Fii)を中心に行なっています。Fiiは経済産業省からJ-Innovation HUB地域オープンイノベーション拠点（国際展開型）に認定してもらいました。Fiiは貸室50室がほぼ満室になっており、その部屋代収入で運営されています。Fiiを拠点としているベンチャー企業があります。ナノファイバーの(株)ナフィアスや、親水剤のNT&I(株)が拠点としています。生地の風合い測定（KES法）、人工気象室などを用いて製品評価をするために部屋を借りる企業も多く、各種紡糸装置を用いて試作するために部屋を借りる企業もあります。

繊維の6検査機関とともに、共通の社会課題に取り組むということで、LCA（ライフサイクルアセスメント）のプラットフォームを構築しています。アパレルが各プロセスのCO2排出量を把握し、CO2排出量を削減する方針を立てるためです。企業同士が不足している部分を補い合うということでは、公益財団法人長野県産業振興機構(NICE)のグリーンイノベーションセンターが主催しているサーキュラーエコノミーイノベーション研究会で、サーキュラーエコノミーのための材料開発を行なっています。企業同士が自発的に交流し、迅速にサンプルを作製するなど、活発に活動しています。この他には、中核・中堅企業支援として、繊維系企業の経営力強化に取り組んでいて、サステナビリティ対応やグローバルネットワーク構築を進める予定です。

組織において自分らしく生き生きと働き、能力を発揮し、組織に貢献できることを、インクルージョンと言います。研究室では、うまくいっていると学生部屋にたくさん学生がいるのに対して、うまくいっていないとあまり学生がいないのでわかりやすいです。チームのパフォーマンスと創造性を向上させるには、心理的安全性と相互信頼が大切だと言われています。研究室では、いくつかの工夫をしています。学生に納得してもらいなが

